

別紙 1

年賀寄附金誕生60周年記念シンポジウム

1. 目的

昭和24年にお年玉付郵便葉書等に関する法律が制定され、それに基づき昭和25年用お年玉付年賀はがきとお年玉付寄附金付年賀はがきが発行され本年で60周年を迎え、同年賀はがきは半世紀を越えて“還暦”に至る歴史を持つ日本固有の素晴らしい伝統文化に発展しました。

そこで、日本郵便CSR活動の大きな柱である寄附金付年賀はがきによる年賀寄附金配分助成事業の60周年を記念したシンポジウムを次のとおり開催することによって、同助成事業の歴史を再認識するとともに、寄附していただいた多くの方々の負託に応え、心豊かな美しい社会を作るための将来展望を描くきっかけとします。

2. 概要

(1) 実施日

平成21年7月26日(日)

(2) 場所

第一部：東京文化会館（台東区上野5-4-5）大会議室（70名）

第二部：同会館大ホール（客席数2,303名）

第三部：大会議室

(3) 後援

総務省（申請手続中）

(4) 構成

ア. 第一部 記念シンポジウム（10:30～13:00）

総合司会：秋沢淳子（TBS アウンサー）

10:30

<http://www.tbs.co.jp/anatsu/who/akisawa.html>

主催者あいさつ：郵便事業株式会社社長CEO 北村憲雄

10:35～10:40

来賓挨拶：総務省（予定）

10:40～10:45

(ア) 基調講演 太田達男（財団法人公益法人協会理事長）

10:45～11:00

(イ) 配分団体活動報告(計画)発表

11:00～12:00

○過去

(財)東京都交響楽団：都響とティーンズ[®]のためのジョイント・コンサート(H18)

(N)ホームホスピス宮崎：コミュニティア支援センター設置事業(終末期ケア、重度認知症)(H18・H20)

(社福)山城福祉会：知的障がい者の自立と地域住民との交流(養蚕)(H20)

○今回

(社福)いのちの電話：「いのちの電話」インターネット相談の実施(H18・H21)

(N)子どもの村福岡（虐待等家を失った子どものための村:SOSキダート）世界132か国

(ウ) パネルディスカッション（総合司会の秋沢淳子アウンサーも参加）

12:00～13:00

○ テーマ：日本における寄附文化の醸成と年賀寄附金の役割(現在・過去・未来)

○ コーディネーター：太田達男（財団法人公益法人協会理事長）

○ スペシャルゲスト：マリ クリスティーナ <http://mari-christine.com/>

○ パネリスト：

宇田左近（郵便事業株式会社専務執行役員）

栃本一三郎（上智大学社会福祉学科教授）

堀田 力（さわやか福祉財団理事長）

目加田説子（中央大学総合政策学部教授）

場 所：東京文化会館大会議室

【休 憩】 軽食（13:00～14:00）

イ. 第二部 第11回都響とティーンズのためのジョイント・コンサート（14:00～16:00）

実施団体：東京都交響楽団（平成18年度配分実績あり）

協 賛：日本郵便

場 所：東京文化会館大ホール

招 待：シンポジウム出席者

CSR活動の一環として、恵まれない・障害をもった子どもたちを中心に招待

ウ. 第三部 交流会（16:30～18:30）

司 会：樋田由美子（第二部コンサートの司会者）

場 所：東京文化会館大会議室

3. 出席者・招待者（予定）

- (1) 総務省、東京都、文化庁
- (2) 日本郵政グループ各社
- (3) 年賀寄附金アドバイザー・グループ、年賀寄附金審査委員
- (4) 年賀寄附金配分助成団体
- (5) 社会福祉法人全国社会福祉協議会、社会福祉法人中央共同募金会、
財団法人助成財団センター、社団法人日本経済団体連合会(1%クラブ)
- (6) NPO学会、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会等NPO支援団体
- (7) 民間助成団体（日本財団、トヨタ財団等）
- (8) 子どもたち（第二部招待：例えば難病の子ども、DV等で家を失った子ども、視覚・身体障害の子ども）
- (9) 東京都交響楽団、東京文化会館
- (10) その他

4. その他

- (1) メディアとして、JFN（ジャパンエフエムネットワーク）の協力を得、FMラジオ番組放送の中で、紹介される予定です。
- (2) 本件シンポジウム開催により排出されるCO2（使用電力等）を『J-VER』によりカーボンオフセットします。